



旭川市立日章小学校

学校いじめ防止基本方針



平成26年4月
(令和5年4月 改定)

【目次】

はじめに

第1章	いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項	
1	いじめの防止等の対策に関する基本理念	1
2	いじめの理解	2
第2章	学校が実施するいじめの防止等の取組	
1	本校のいじめの実情	4
2	児童が主体となった取組の推進	5
3	学校いじめ対策組織の設置	5
4	いじめ防止の取組	6
5	いじめの兆候と早期発見と積極的な認知	7
	◇いじめ発見・見守りチェックリスト	8
	◇主な相談窓口	9
6	いじめへの対応	10
7	いじめの解消	11
	◇早期発見・事案対処マニュアル	12
8	いじめの重大事態への対応	13
9	いじめの防止等に関する機関，保護者等との連携	14
10	インターネットを通じて行われるいじめへの対処，保護者との連携	14
11	学校いじめ防止プログラム	14
【資料】	いじめの発見・観察ポイント（保護者用）	17

はじめに

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものです。

本校では、これまでも教職員が一丸となって、「いじめは人として決して許されない行為」であること、また「いじめはどの学校でも、どの児童でも起こりうる」という認識のもと、いじめられている児童がいた場合には最後まで守り抜き、いじめを行なっている児童にはいかなる理由であってもその行為を許さず毅然と指導するとともに、その背景にも目を向け、その防止と対処に努めてきたところです。

さらには、百人一首等の異学年交流の活動や鬼ごっこなどの全校一斉の取組など、少人数ならではの活動をとおして、児童の良好な人間関係の構築による未然防止にも努めてきました。

いじめの問題は、人間関係のもつれ等に起因しているため、児童や教職員、保護者等がよりよい関係をどう築いていくか、ということを経営の基軸に据え、家庭や地域と連携し、学校を取り巻く全ての人の心が通い合う教育の充実を図ることが大切です。

そのため、本校においては、「いじめ防止対策推進法」に基づき、「いじめの防止等のための基本的な方針（以下「国の基本方針」といいます。）」や「北海道いじめ防止基本方針」、旭川市の「旭川市いじめ防止基本方針」を踏まえ、いじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するための「学校いじめ防止基本方針」を策定するとともに、いじめ防止対策委員会を設置し、いじめの防止に向けた取組の充実と適切で迅速な対処に努めます。

第1章 いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

1 いじめの防止等の対策に関する基本理念

いじめは、全ての児童に関係する問題です。いじめの防止等の対策は、全ての児童が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨として行わなければなりません。

また、全ての児童がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがないよう、いじめの防止等の対策は、いじめがいじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童が十分に理解できるようにすることを旨としなければなりません。

加えて、いじめの防止等の対策は、いじめを受けた児童の生命・心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、学校、市、教育委員会、家庭、地域住民その他の関係者の連携の下、いじめの問題を克服することを目指して行わなければなりません。

2 いじめの理解

(1) いじめの定義

「いじめ防止対策推進法」(以下「法」といいます。)では、いじめを次のように定義しています。いじめに当たるか否かの判断は表面的・形式的に行うのではなく、いじめを受けた児童や周辺の状態を踏まえ、法の定義の下に判断し対処します。

また、法の対象となるいじめに該当するか否かを判断するに当たり、「心身の苦痛を感じているもの」の要件を限定して解釈することがないように努めます。

- 第2条 この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。
- 2 この法律において「学校」とは、学校教育法第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（幼稚部を除く。）をいう。
- 3 この法律において「児童等」とは、学校に在籍する児童又は生徒をいう。
- 4 この法律において「保護者」とは、親権を行う者（親権を行う者のないときは、未成年後見人）をいう。

(2) いじめの内容

具体的ないじめの態様としては、次のようなものがあります。

- 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- 仲間はずれ、集団による無視をされる。
- 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- 金品をたかられる。
- 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
- パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。 など

上記を理解するに当たっては、次のことに留意する必要があります。

- ・「いじめを受けたことを認めたくない」「保護者に心配をかけたくない」などの理由で、事実を否定する児童がいることが考えられます。いじめに当たるか否かの判断は表面的・形式的に行わず、いじめを受けた児童や周辺の状態等を踏まえ、法の定義に基づき判断し、対応します。
- ・インターネットを通じたいじめなど、本人が気付いていない中で誹謗中傷が行われ、当該児童が心身の苦痛を感じていない場合も、同様に対応します。
- ・善意に基づく行為であっても、意図せず相手児童に心身の苦痛を感じさせてしまい、いじめにつながる場合もあることや多くの児童が被害児童としてだけでなく、加害児童としても巻き込まれることや被害、加害の関係が比較的短期間で入れ替わる事

実を踏まえ対応します。なお、軽い言葉で相手を傷つけたが、すぐに加害児童が謝罪し教員の指導によらずして良好な関係を再び築くことができた場合等においては、いじめという言葉を使わずに指導するなど、柔軟に対応します。

- けんかやふざけ合いであっても、見えないところで被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断するものとします。日頃からグループ内で行われているとして、けんかやふざけ合いを軽く考え、気付いていながら見逃してしまうことがないように、些細に見える行為でも、表には現れにくい心理的な被害を見逃さない姿勢で対応します。
- 児童が互いの違いを認め合い、支え合いながら、健やかに成長できる環境の形成を図る観点から、例えば、障害のある児童等、学校として特別な配慮を必要とする児童については、日常的に、当該児童の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の児童に対する必要な指導を組織的に行います。

これらの中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれます。教育的な配慮や被害者の意向への配慮の上で、早期に警察に相談・通報の上、連携して対応する必要があります。

(3) いじめの要因

いじめの要因を考えるに当たっては、次の点に留意していきます。

- いじめは、児童同士の複雑な人間関係や心の問題から起こるものであり、いじめの芽はどの児童にも生じ得る。
- いじめは、単に児童だけの問題だけでなく、パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント、他人の弱みを笑いものにしたり、異質な他者を差別したりするといった大人の振る舞いを反映した問題でもあり、家庭環境や対人関係など、多様な背景から様々な場面で起こり得る。
- いじめは、加害と被害という二者関係だけでなく、はやしたてたり面白がったりする観衆の存在、暗黙の了解を与えている傍観者の存在、所属集団の閉鎖性等の問題により、潜在化したり深刻化したりする。
- 児童一人一人を大切にしたり分かりやすい授業づくりや、児童の人間関係をしっかりと把握し、全ての児童が活躍できる集団づくりが十分でなければ、学習や人間関係の問題が過度なストレスとなり、いじめが起こり得る。
- 児童の発達の段階に応じた、男女平等、子ども、高齢者、障害のある人などの人権に関する意識や正しい理解、自他を尊重する態度の育成、自己有用感や自己肯定感の育成を図る取組が十分でなければ、互いの違いを認め合い、支え合うことができず、いじめが起こり得る。

(4) いじめの解消

いじめが解消している状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要があります。ただし、必要に応じ、いじめを受けた児童といじめを行った児童との関係修

復状況など他の事情も勘案して判断していきます。

ア いじめに係る行為が止んでいること

いじめを受けた児童に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が相当の期間継続していること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とする。

※いじめの被害の重大性等から、更に長期の期間が必要と判断される場合はいじめ防止対策委員会及び教育委員会の判断により、期間を延長する。

イ いじめを受けた児童が心身の苦痛を感じていないこと

いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、いじめを受けた児童がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。いじめを受けた児童本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。

(5) いじめの重大事態

重大事態とは、法第28条第1項により次のとおり規定されています。

ア いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき

イ いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき

第2章 学校が実施するいじめ防止等の取組

1 本校のいじめの実情および令和5年度の目標

本校では、年3回のいじめ実態調査（児童アンケート）を行っています。また、月に1度、児童との面談方式による教育相談を実施しています。その結果、昨年度は全校において、いじめの認知は1件でした。校内の「いじめ防止対策委員会」が中心となり、保護者と連携を図りながら子どもたちを見守っています。また、質問項目「いじめはどんなことがあっても許されない」については、肯定率100%の結果となり、いじめ行為に対する認識は定着していると言えます。本実態調査の結果は、7月と3月の学校だよりをとおして、保護者・地域にも伝えていきます。今年度も「いじめの芽は、どの児童にも生じ得る。」という立場の下、些細な言動や行為がいじめに繋がっていくという意識をさらに高め、常にアンテナを張り巡らしていきます。また、「嫌な思いをしたとき」相談する相手に、先生や家族と回答した児童が多いことから、引き続き、保護者との日常的な連携を大事にしていきます。

令和5年度は、「児童アンケート調査」（年3回）、「教育相談」（毎月実施）、「ストレスチェック（4年生以上）」、教職員による「いじめ発見・見守りチェックリスト」の活用等により、「いじめ見逃しゼロ」を目標に積極的な認知を進めます。また、今年度もいじめアンケート「いじめはどんなことがあっても許されない」についての肯定率100%を目指します。

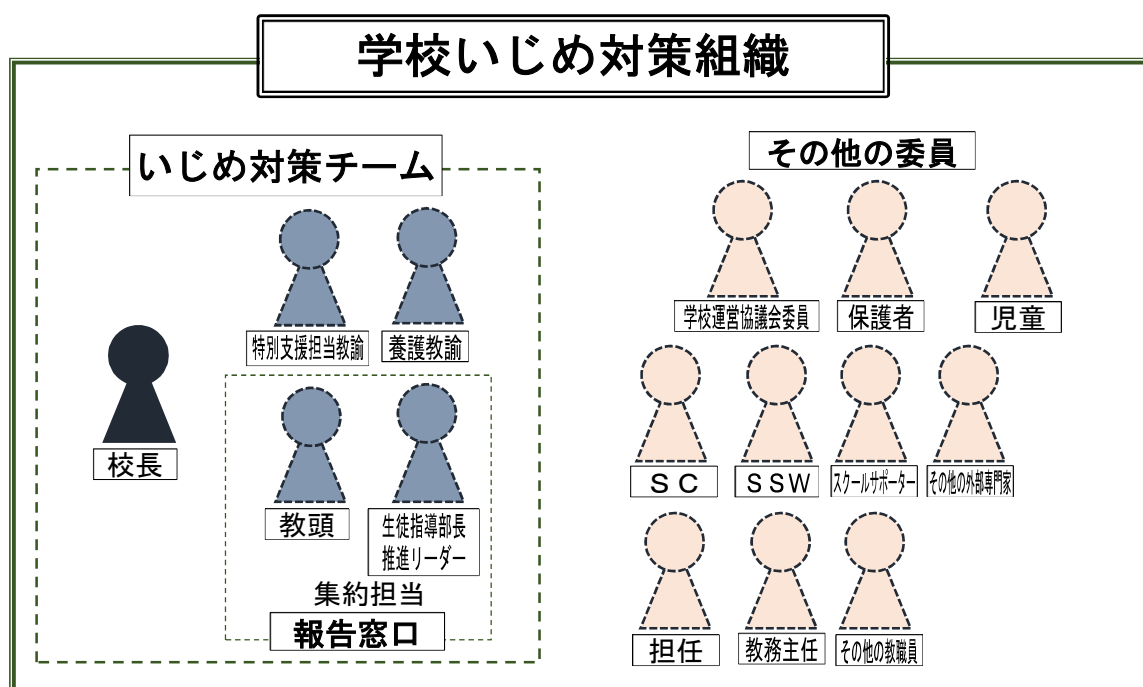
2 児童が主体となった取組の推進

児童会を中心に、「伝えようありがとうの気持ち」等の主体的な取組を継続しています。

本活動は、全校児童が学年に関係なく、友達のよいところや互いへの日常的な感謝の気持ちをカードに書き、掲示し互いに見合うことができます。低学年から高学年へ、同学年へ、様々な内容で感謝の気持ちが書かれており、児童自身が思いやりをもって関わり合っていることが分かるとともに、次に向けての意欲につながっています。

3 学校いじめ対策組織の設置

(1) いじめ防止対策委員会（学校いじめ対策組織）の構成



(2) いじめ防止対策委員会の役割

① 未然防止

ア) いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくり

いじめは、全ての児童に起こりうることから、児童をいじめに向かわせないための取組が大切である。

児童が他の児童や教職員と信頼できる関係の中で安心して安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加し活躍できる授業づくりや集団づくりに努める。

また、児童の行動の様子や定期的なアンケート調査などで成果を定期的に検証し、改善につなげていく（PDCA サイクルの徹底）

② 早期発見・事案対処

ア) いじめの相談・通報を受け付ける窓口となる。

イ) いじめの早期発見・事案対処のための、いじめの疑いに関する情報や児童の問題行動などに係る情報の収集と記録、共有を行う。

- ウ) いじめに係る情報があったときには、情報の迅速な共有及び関係児童に対する聴取り調査等により事実関係の把握といじめの認知の判断を行う。
- エ) いじめに係る情報が無くても、月に1回以上委員会を開催し、児童の生活の様子を確認し、いじめの早期発見につながるよう努める。
- オ) いじめの解消に至るまでいじめを受けた児童の支援を継続するため、支援内容・情報共有・教職員の役割分担を含む対処プランを策定し、確実に実行する。
- カ) いじめを受けた児童に対する支援、いじめを行った児童に対する指導、対応方針の決定と保護者との連携等の対応を組織的に実施する。
- ③ 学校いじめ防止基本方針に基づく各種取組
 - ア) 本基本方針が本校の実情に即して適切に機能しているかについての点検の実施と見直しを行う。
 - イ) いじめの防止等に係る校内研修を企画し、計画的に実施する。
 - ウ) いじめ防止対策委員会の会議の記録・保管をする。

4 いじめ防止の取組

(1) いじめについての共通理解

- ① いじめの態様や特質、原因・背景、具体的な指導上の留意点について、職員会議や校内研修において周知し、教職員全員の共通理解を図ります。
- ② いじめの未然防止に向けた授業を行うとともに、児童用「学校いじめ防止基本方針」を作成し、周知を図るなどして、いじめ防止対策委員会の存在や取組について、児童が容易に理解できるような取組を進めます。

(2) いじめに向かわない態度・能力の育成

- ① 教育活動全体を通じた道徳教育の充実及び命を尊重する授業の工夫・改善、読書活動・体験活動などの推進により、児童の社会性を育む取組を進めます。
- ② 児童の発達段階や実態に応じた人権教育の充実により、多様性を理解するとともに、自分の存在と他者の存在を等しく認め、互いの人格を尊重する態度を醸成する取組を進めます。
- ③ 幅広い社会体験、生活体験の機会を設け、他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を養う取組を進めます。

(3) いじめが生まれる背景と指導上の注意

- ① 加害の背景には、人間関係のストレスをはじめ、学習の状況等が関わっていることを踏まえ、授業についていけない焦りや劣等感がストレスにならないよう、一人一人を大切にしたい分かりやすい授業づくりに努めます。
- ② 教職員の不適切な認識や言動が、児童を傷付けたり、他の児童によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方には細心の注意を払います。

(4) 自己有用感や自己肯定感を育む指導の充実

- ① 教育活動全体を通じ、児童が活躍でき、他者の役に立っていると感ずることがで

きる機会を全ての児童に提供し、児童の自己有用感を高めるよう努めます。

- ② 自己肯定感が高まるよう、困難な状況を乗り越えるような体験の機会を設けるなどの工夫に努めます。
- ③ 自己有用感や自己肯定感、社会性などは、発達段階に応じて身に付いていくものであることを踏まえ、小・中学校間で連携した取組を進めます。

自己有用感～他者との関係の中で「自分は役に立っている」など、自らの存在を価値あるものと受け止められる感情
自己肯定感～「自分は良いところがある」「自分は〇〇できる」など、自らを積極的に評価できる感情

(5) 系統だった人権に関わる学習

- ① 旭川市教育委員会からの教材等を活用し、人権擁護の意識を育ませます。

- 生命（いのち）の安全教育の授業 ～ 1, 3, 5年生

子どもたちを性暴力の加害者、被害者、傍観者にしないために自分と相手の体を大切にする態度や性暴力が起きた時に適切に対応する力を身付けさせる授業を実施します。

- SNSのコミュニケーションについて考える授業 ～ 2, 4, 6年生

オンラインゲームのチャット機能などを利用したコミュニケーションにおいて起こり得るトラブルや原因から、よいコミュニケーションの在り方や、ネットいじめの防止について考えさせる授業を実施します。

(6) (仮称) 旭川市いじめ防止条例に関する学習 ～ 5, 6年生

令和5年に施行される「旭川市いじめ防止条例」を理解し、いじめが人に与える影響や、いじめが起きたときの対処の仕方、自らいじめを生まないための行動等について学習します。

5 いじめの兆候の早期発見と積極的な認知

いじめの防止には、「いじめの芽は、どの児童にも生じ得る」という意識を常にもち、その兆候を見逃さないことが大切です。また、いじめの認知に対して、教師一人一人の主観的な判断を行わず、「いじめ防止対策委員会」にて法令や指針に則り判断する必要があります。「いじめ防止委員会」を月に1回以上開催し、いじめの早期発見に努めます。

- いじめに係わる各種アンケートの実施と結果の分析を行う。いじめの兆候を発見した場合には、迅速に対応する。
- 面接による教育相談を実施し、児童一人一人と話し合う時間を設ける。
- いじめの兆候に際し、児童への聞き取りとともにチェックリストを活用することによって、客観的に事実を把握し、積極的に認知を進める。
- 担任は、日常より児童と積極的に関わることによって、変調を見逃さないように努め、相談しやすい雰囲気づくりに努める。
- 児童及び保護者に、保健室（養護教諭）や相談室（スクールカウンセラー等）の利用や、学級担任だけでなく全ての教師への相談が可能なこと、関係機関等との電話相談窓口について周知し、いじめについて相談しやすい体制を整備する。

いじめ発見・見守りチェックリスト

日章小学校いじめ防止対策委員会

年 組 記入者 【記入日 月 日】

日常の行動や様子等

児童名

- 遅刻・欠席・早退が増えた。……………〔 〕
- 保健室などで過ごす時間が増えた。又は、すぐに保健室に行きたがる。……………〔 〕
- 用もないのに職員室や保健室の付近でよく見かける。又は訪問する。……………〔 〕
- 教職員のそばにいたがる。……………〔 〕
- 登校時に、体の不調を訴える。……………〔 〕
- 休み時間に一人で過ごすことが多い。……………〔 〕
- 交友関係が変わった。……………〔 〕
- 他の子の持ち物を持たされたり、使い走りをさせられたりする。……………〔 〕
- 表情が暗く（さえず）、元気がない。……………〔 〕
- 視線をそらし、合わそうとしない。……………〔 〕
- 衣服の汚れや傷み等が見られる。……………〔 〕
- 持ち物や掲示物等にいたずらされたり、落書きされたり、隠されたりする。……………〔 〕
- 体に擦り傷やあざができていくことがある。……………〔 〕
- けがをしている理由を曖昧にする。……………〔 〕

授業や給食の様子

児童名

- 教室にいつも遅れて入ってくる。……………〔 〕
- 学習意欲が減退したり、忘れ物が増えたりしている。……………〔 〕
- 発言したり、褒められたりすると冷やかしかからかいがある。……………〔 〕
- グループ編成の際に、所属グループが決まらず孤立する。……………〔 〕
- グループを編成すると机を離されたり避けられたりする。……………〔 〕
- 食事の量が減ったり、食べなかったりする。……………〔 〕

清掃や放課後の様子

児童名

- 清掃時間に一人だけ離れて掃除している。……………〔 〕
- ゴミ捨てなど、人の嫌がる仕事をいつもしている。……………〔 〕
- 一人で下校することが多い。……………〔 〕

アンテナを高く、些細なことにも目を向けて！ 日常から積極的な見取りを行います。

主な相談窓口

◆旭川市子ども総合相談センター

<電話番号>

代表 0166-26-5500

子どもホットライン 0120-528506 (こんにちはコール)

<受付時間>

月・木 8:45~20:00 火・水・木 8:45~17:15

◆子ども相談支援センター（北海道教育委員会）

<電話番号>

0120-3882-56

0120-0-78310 (24時間子供SOSダイヤル)

<受付時間>

毎日24時間

<メール相談>

doken-sodan@hokkaido-c.ed.jp

◆子どもの人権110番（旭川地方法務局）

<電話番号>

0120-007-110 (ゼロゼロなの ひゃくとおばん)

<受付時間>

平日 8:30~17:15

◆少年サポートセンター「少年相談110番」（北海道警察）

<電話番号>

0120-677-110

<受付時間>

平日 8:45~17:30

◆旭川法務少年支援センター（旭川少年鑑別所）

<電話番号>

0166-31-5511

<受付時間>

平日 9:00~16:00

◆法テラス旭川

<電話番号>

050-3383-5566

<受付時間>

平日 9:00~17:00

- ◆スクールカウンセラーへの相談も受け付けております。
事前に都合のよい日時を学校（22-8301）へお知らせください。

6 いじめへの対応

いじめの発見や通報後は、児童や保護者が安心できるよう、組織的に対処することが必要です。いじめを受けた児童の安全を確保するとともに、保護者に連絡し今後の対応等を説明し信頼関係の維持に努めます。そして、状況の把握や事実確認、児童への指導等を進めていきます。

(1) いじめの発見・通報を受けたときの対応

- ① 遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、その行為を止めさせます。
- ② いじめられた児童やいじめを知らせた児童の安全を確保します。
- ③ 児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに警察等関係機関と連携し、適切な援助を求めます。

(2) いじめを受けた児童及びその保護者への支援

- ① いじめられた児童から、事実関係の確認を迅速に行い、当該保護者に伝えます。
- ② いじめられた児童の見守りを行うなど、いじめられた児童の安全を確保します。
- ③ 必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールサポーターなど外部専門家の協力を得て対応します。

(3) いじめを行った児童及びその保護者への助言

- ① いじめを行ったとされる児童からも事実関係の聴取を行い、いじめがあったことが確認された場合、いじめを止めさせ、その再発を防止します。
- ② いじめを行った児童が抱える問題など、いじめの背景にも目を向け、健全な人格の発達に向けた指導を行います。
- ③ 事実関係の確認後、当該保護者に連絡し、以後の対応を適切に行えるよう保護者の協力を求めるとともに、継続的な助言を行います。

(4) いじめが起きた集団への働きかけ

- ① いじめを傍観していた児童に、自分の問題として捉えさせ、いじめを止めさせることはできない場合でも、誰かに知らせる勇気をもつよう伝えます。
- ② 学級全体で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという意識を深めます。

(5) 性に関わる事案への対応

- ① 他の事案と同様に、いじめ防止対策委員会において、組織的にいじめであるか否かの判断を行うとともに、児童のプライバシーに配慮した対処を行います。
- ② 事案の対処に当たっては、管理職や関係教職員、養護教諭等によるチームを編成し、児童に対して同性の教職員や話しやすい教職員が対応するなど、適切な役割分担を行います。
- ③ 事案に応じて、スクールカウンセラーを含めたチームで対応するとともに、医療機

関や警察等の関係機関との連携を図ります。

- ④ チーム内のみで詳細な情報を共有し、情報管理の徹底に努めます。

(6) 関係児童生徒が複数の学校に在籍する事案への対応

- ① 学校間で対応の方針や具体的な指導方法に差異が生じないように、教育委員会から対応への指導・助言を受け、該当学校との連携協力を行います。

7 いじめの解消

「第1章：2：(4) いじめの解消」においても記載したとおり、単に謝罪をもって安易に解消とせず、次の2つの要件が満たされている場合に、解消と判断します。

- いじめられた児童へのいじめとされた行為が、目安として少なくとも3か月止んでいる状態が継続していること。
- 上記の時点で、いじめられた児童本人及びその保護者に対し、面談等を行った結果、いじめられた児童が、心身の苦痛を感じていないと認められること。

いじめが「解消している」状態とは、あくまでも一つの段階にすぎないため、いじめが再発する可能性があり得ることを踏まえ、「いじめ発見・見守りチェックシート」を活用するなどして、児童や学級等の観察を注意深く続けます。また、いじめが解消していない段階では、いじめられた児童を徹底的に守りとおし、安全・安心を確保します。

早期発見・事案対処マニュアル

【いじめの把握・報告】

<いじめの把握>

- いじめを受けた児童や保護者
- 学級担任
- 児童アンケート調査や教育相談
- 学校以外の関係機関や地域住民
- 周囲の児童や保護者
- 養護教諭等学級担任以外の教職員
- スクールカウンセラー（SC）
- その他

<いじめの報告>

- 把握者 → いじめ対策推進リーダー（生徒指導部長） → 教頭 → 校長

いじめ防止対策委員会の開催

【事実確認及び指導方針等の決定（いじめ防止対策委員会）】

- 事実関係の把握
- 「いじめ対処プラン」の作成（指導方針、指導方法、役割分担等の決定）
- 全教職員による共通理解
- いじめ認知の判断
- SCや関係機関等との連携の検討

【いじめ対策委員会による対処】

- いじめを受けた児童及び保護者への支援
- 周囲の児童への指導
- 関係機関（教育委員会、警察、子ども総合相談センター）との連携
- いじめを行った児童及び保護者への指導・助言
- SCなどによる心のケア

	いじめを受けた児童	いじめを行った児童	周囲の児童
学 校	<input type="checkbox"/> 組織体制を整え、いじめを止めさせ、安全の確保及び再発を防止し、徹底して守り通す。 <input type="checkbox"/> いじめの解消の要件に基づき、対策組織で継続して注視するとともに、自尊感情を高める等、心のケアと支援に努める。	<input type="checkbox"/> いじめは、他者の人権を侵す行為であり、絶対に許されない行為であることを自覚させるなど、謝罪の気持ちを醸成させる。 <input type="checkbox"/> 不満やストレスを克服する力を身に付けさせるなど、いじめに向かうことのないよう支援する。	<input type="checkbox"/> いじめを傍観したり、はやし立てたりする行為は許されないことや、発見したら周囲の大人に知らせることの大切さに気付かせる。 <input type="checkbox"/> 自分の問題として捉え、いじめをなくすため、よりよい学級や集団をつくることの大切さを自覚させる。
家 庭	<input type="checkbox"/> 家庭訪問等により、その日のうちに迅速に事実関係を説明する。 <input type="checkbox"/> 今後の指導の方針及び具体的な手立て、対処の取組について説明する。	<input type="checkbox"/> 迅速に事実関係を説明し、家庭における指導を要請する。 <input type="checkbox"/> 保護者と連携して以後の対応を適切に行えるよう協力を求めるとともに、継続的な助言を行う。	<input type="checkbox"/> いじめを受けた児童及び保護者の意向を確認し、教育的配慮のもと、個人情報に留意しながら、必要に応じて今後の対応等について協力を求める。

- いじめ対策組織におけるいじめの解消の判断

【再発防止に向けた取組】

- 原因の詳細な分析
 - 事実の整理、指導方針の再確認
 - スクールカウンセラーなど外部の専門家等の活用

- 学校体制の改善・充実
 - 生徒指導体制の点検・改善
 - 教育相談体制の強化
 - 児童理解研修や事例研究等、実践的な校内研修の実施

- 教育内容及び指導方法の改善・充実
 - 児童の居場所づくり、絆づくりなど、学年・学級経営の一層の充実
 - 道徳教育の充実等、児童の豊かな心を育てる指導の工夫
 - 分かる授業の展開や認め励まし伸ばす指導、自己有用感を高める指導など、授業改善の取組

- 家庭、地域との連携強化
 - 教育方針やいじめ防止の取組等の情報提供や教育活動の積極的な公開
 - 学校評価を通じた学校運営協議会等によるいじめの問題の取組状況や達成状況の評価
 - 児童のPTA活動や地域行事への積極的な参加による豊かな心の醸成

8 いじめの重大事態への対応

(1) 重大事態とは

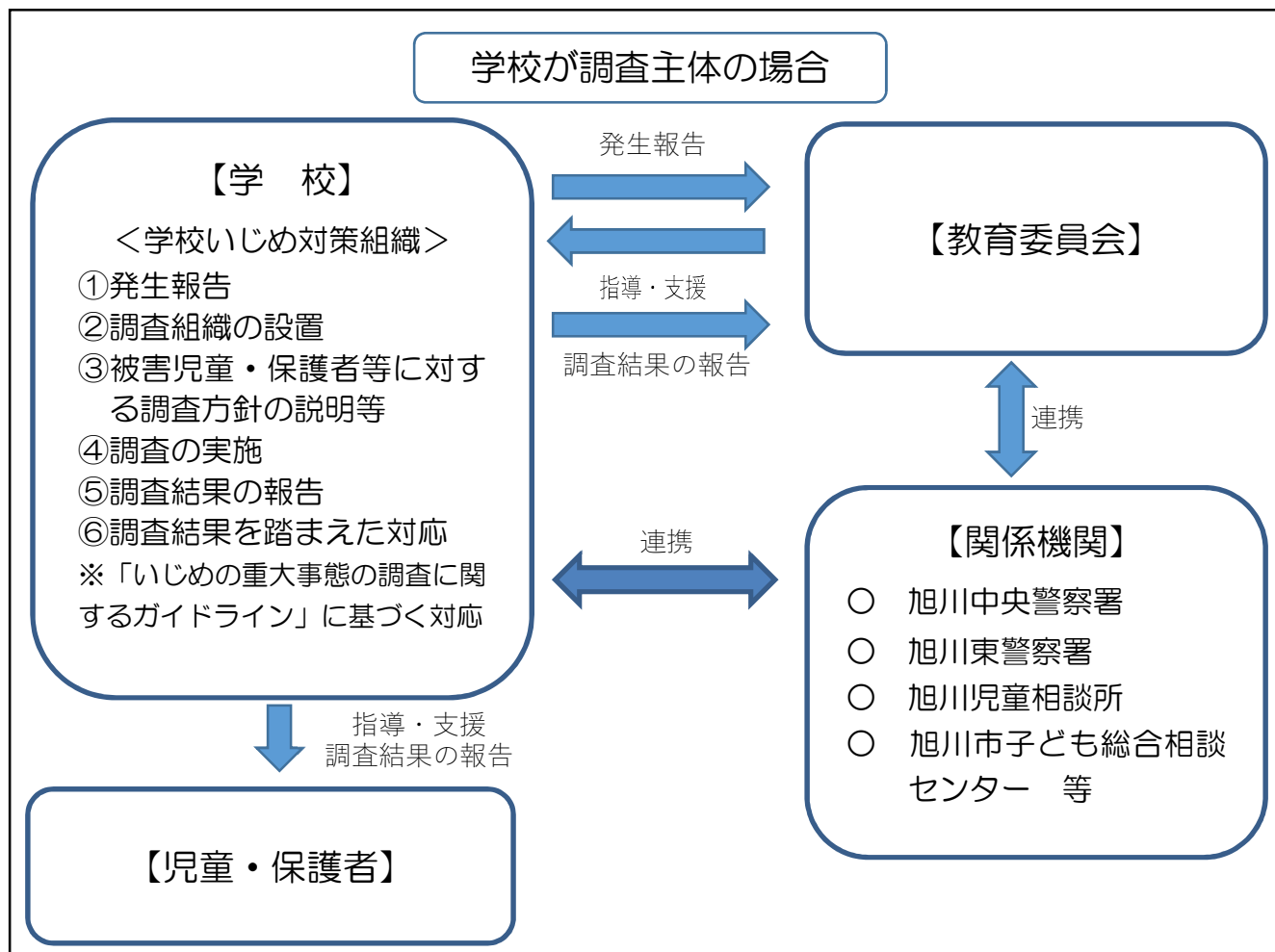
- ① いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき
- ② いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき
- ③ 児童や保護者から、いじめにより重大な被害が生じたという申し立てがあったとき。

※重大事態か否かの判断は、「いじめ防止対策推進法」や「国の基本方針」、「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」等を参考にします。

(2) 学校における重大事態への対処

- ① 重大事態が生じた疑い又は重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告し、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応します。
- ② 学校が事実関係を明確にする調査を実施する場合は、「学校いじめ対策組織」において実施し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応します。
- ③ 調査結果は、被害児童及び保護者に対して適切に提供します。

(3) 重大事態対応フロー図



9 いじめの防止等に関する機関、保護者との連携

いじめの防止に係わり、各種機関と連携するとともに、学校いじめ防止基本方針について参観日後の保護者懇談等において説明を行います。また、学校いじめ防止基本方針を学校ホームページに掲載し、家庭や地域に対していじめ問題の重要性について認識を広めます。いじめ防止基本方針の策定にあたり、PTA 及び学校運営協議会委員と連携します。

さらには、いじめの防止等に係わる児童の自主的な活動や学校の取組等を積極的に発信し、家庭や地域と共通理解を図り、緊密に連携します。

また、いじめの対応に当たっては、必要に応じて学校いじめ対策組織に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポーター（警察経験者）等の外部組織を加えて対応します。

民間の相談機関との連携については、管理職が窓口となり、個人情報保護に配慮しながら、いじめの早期発見のための貴重な情報と受け止めて適切に対応するとともに、対応状況や対応結果等について教育委員会に報告します。

10 インターネットを通じて行われるいじめへの対処、保護者との連携

本校では、警察と連携し講話や校内放送によって「情報モラル教室」を実施し、メディアリテラシーの啓発に努めています。また、毎月ネットパトロールを実施し、インターネット上でのトラブルの未然防止に努めています。

インターネットを通じて行われるいじめは、学校外で行われることが多いことから、保護者の家庭での指導と見守りが不可欠です。子どもにルールを教えると同時に、正しいメディア使用を保護者自ら、意図的に演出して手本となる姿勢を見せていくことも大切です。

子どもと一緒にメディア使用について話し合い、禁止や規則（ルール）を決めることが大切です。しかし、それだけが目的ではありません。子どもが自分自身の力で自らを守ることができるようにすることが、全ての大人の願いです。

- 情報モラル教育を進めるとともに、保護者に対して啓発を行います。
- 学校ネットパトロールを実施し、早期発見に努めます。
- 不適切な書き込みを発見した場合は、保護者との連携の下に、速やかに削除を求めなどの措置を講じるとともに、必要に応じて、関係機関に適切な援助を求めます。

11 学校いじめ防止プログラム

いじめの未然防止のために、全ての教職員の共通認識を図るため、生徒指導上の諸問題等に関する校内研修や生徒指導事例研修などを活用し、計画的に行います。

スクールカウンセラーや旭川市子ども総合相談センターのスクールソーシャルワーカー、臨床心理士等を活用し、教職員のカウンセリング能力等の向上のための校内研修の実施に努めます。

詳しくは、別記「学校いじめ防止プログラム」を参照ください。

11 日章小学校いじめ防止プログラム

□ は、未然防止の取組

□□□□ は、早期発見の取組

	4月	5月	6月(強調月間)	7月	8月	9月
教職員	<p>○いじめ防止対策委員会 ・チェックリストや教育相談の結果を情報共有し、対処を検討する。 ※いじめに関わる相談や報告があった場合は、いじめ防止対策委員会を随時開催し、認知の判断や対処プランを検討し、実施する。(通年)</p> <p>○校内研修 ・基本方針内容の共通理解</p> <p>○いじめ事案の全件報告(毎週)</p> <p>○学校ネットパトロール</p> <p>○教育相談</p>	<p>○いじめ防止対策委員会</p> <p>○いじめ事案の全件報告(毎週)</p> <p>○学校ネットパトロール</p> <p>○学級経営交流会① ※児童の様子交流</p> <p>○教育相談</p>	<p>○いじめ防止対策委員会</p> <p>○いじめ事案の全件報告(毎週)</p> <p>○チェックリストの実施(毎月)</p> <p>○学校ネットパトロール</p> <p>○児童の様子交流会(事例研修会①)</p> <p>○道教委いじめ問題への取組状況の調査報告①</p> <p>○教育相談</p>	<p>○いじめ防止対策委員会</p> <p>○いじめ事案の全件報告(毎週)</p> <p>○学校ネットパトロール</p> <p>○児童に関わる学校間の情報交流(授業参観等)</p> <p>○教育相談</p>	<p>○いじめ防止対策委員会</p> <p>○いじめ事案の全件報告(毎週)</p> <p>○学校ネットパトロール</p> <p>○教育相談</p>	<p>○いじめ防止対策委員会</p> <p>○いじめ事案の全件報告(毎週)</p> <p>○学校ネットパトロール</p> <p>○教育相談</p>
	<p>○学習及び生活の基礎づくり ・学習規律、基本的な生活習慣 ・生活目標(通年)等</p> <p>○いじめ相談窓口の理解 ・校内の窓口 ・「子ども版市長への手紙」 ・子ども総合相談センター等</p> <p>○教育相談</p>	<p>○基本方針(児童版)の理解 ・学級の取組を決める</p> <p>○いじめ防止の理解を深める学習①(学級活動・道徳の時間)</p> <p>○「生命の安全教育」の授業</p> <p>○「SNS」の授業</p> <p>○教育相談</p> <p>○OSC教育相談</p>	<p>○児童アンケート調査①</p> <p>○教育相談</p> <p>○ストレスチェックの実施(4年生以上)</p> <p>○いじめ・非行防止強調月間① ○児童会によるいじめの取組の交流と活動</p> <p>○OSC教育相談</p>	<p>○教育相談</p> <p>○いじめ相談窓口の理解</p> <p>○OSC教育相談</p>	<p>○教育相談</p> <p>○生活・学習Actサミットを受けた取組の検討・実施</p> <p>○OSC教育相談</p>	<p>○教育相談</p> <p>○いじめ防止の理解を深める学習(学級活動・道徳の時間)</p> <p>○OSC教育相談</p>
	<p>○OPTA総会 ・学校経営方針の説明 ・学校いじめ防止基本方針の説明</p> <p>○保護者懇談の実施</p> <p>○学校いじめ防止基本方針の学校HPでの公開</p>	<p>○学校いじめ防止基本方針(児童版)を使った取組の紹介 ・学級通信等</p> <p>○「メディアアンケート」の実施</p> <p>○生活リズム強化週間</p>	<p>○保護者懇談の実施</p> <p>○学校運営協議会 ・学校いじめ防止基本方針等の説明</p>	<p>○1学期の取組の状況等についての公表 ・学校だより ・参観日等</p> <p>○保護者懇談の実施</p>		<p>○参観日における道徳の授業の公開</p>

	10月(強調月間)	11月	12月	1月	2月	3月
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会 ○いじめ事案の全件報告(毎週) ○チェックリストの実施(毎月) ○学校ネットパトロール ・学級経営交流会② ※児童の様子交流 ○教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会 ○いじめ事案の全件報告(毎週) ○学校ネットパトロール ○児童に関わる学校間の情報交流(授業参観等) ○道教委いじめ問題への取組状況の調査報告① ○教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会 ○いじめ事案の全件報告(毎週) ○学校ネットパトロール ・児童の様子交流会(事例研修会②) ○学校評価 ・いじめの防止等に関する取組についての点検 ○教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会 ○いじめ事案の全件報告(毎週) ○学校ネットパトロール ○教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会 ○いじめ事案の全件報告(毎週) ○チェックリストの実施(毎月) ○学校ネットパトロール ・学級経営交流会③ ※児童の様子交流 ○教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会 ○いじめ事案の全件報告(毎週) ○学校ネットパトロール ○「学校いじめ防止基本方針」の見直し、改善 ○校下中学校との連携・進学に伴う情報交換等 ○教育相談
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケート調査② ○教育相談 ○ストレスチェックの実施(4年生以上) ○OSC教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談 ○子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 ○児童が主体となった未然防止の取組(児童会主催) ○OSC教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談 ○(仮称)旭川市いじめ防止条例の学習(5年生以上) ○いじめ相談窓口の理解 ○OSC教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談 ○百人一首大会(縦割り班)に向けた取組 ○OSC教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケート調査③ ○教育相談 ○ストレスチェックの実施(4年生以上) ○百人一首大会(縦割り班) ○OSC教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談 ○いじめ相談窓口の理解 ○OSC教育相談
家庭・地域		<ul style="list-style-type: none"> ○OPTA「日章ギネス」の実施 ○生活リズム強化週間 	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の取組の状況等についての公表 ・学校だより ・参観日等 		<ul style="list-style-type: none"> ○新入生入学説明会におけるLineやインターネットトラブル等の講話 ○学校運営協議会 ・1年間の取組状況の説明 ・次年度の学校いじめ防止基本方針に関する協議 ○学校関係者評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学期の取組の状況等についての公表 ・学校だより ・参観日等

いじめの発見・観察ポイント（保護者用）

いじめが発見されにくい原因の一つは、お子様が、保護者に心配をかけたくない、いじめられていることが恥ずかしい、いじめを告白するとさらに状況が悪くなるなどと考え、事実を隠そうとすることにあります。

しかし、いじめられているお子様の言動には、何かしら変化が表れます。普段の様子を丁寧に観察していれば、いじめの兆候を見付けることが可能です。

次の観察ポイントを参考に、少しでも気になることがあれば、担任の先生などに相談しましょう。

第1段階 観察しましょう。

- 「行ってきます」「ただいま」などの声に元気がない。
- 兄弟姉妹に乱暴な態度をとる。
- 保護者への反発が強くなる。
- 食欲がない。
- 寝言などうなされることがある。
- 勉強に身が入っていないように見える。
- 帰宅時に洋服が汚れていたり、破れていたりする。
- 最近、よく物をなくす。
- 学校のことを尋ねると「別に」「普通」などと言い、具体的に答えない。
- メールやブログ等を今まで以上に気にする。
- 友達から呼び出される。
- 頭痛、腹痛を訴え、登校を渋る。
- 学校のノートや教科書を見せたがらない。（*教科書への落書き、破れ）
- 保護者の前で宿題をやろうとしない。（*プリントへの落書き、破れ）
- 学校行事に来ないでほしいと言う。
- 学校からのプリントを見せない。
- 放心状態でいることがよくある。
- 何もしていない時間が多い。
- 倦怠感、疲労、意欲の低下が見られる。
- 無理に明るく振る舞っているように見える。

第2段階 いじめられている可能性を疑い、学校に相談しましょう。

- 「行ってきます」「ただいま」を言わない。
- 気分の浮き沈みが激しい。
- 兄弟姉妹にあたるが増える。
- 理由もなくイライラする。
- 食欲が無くなり、家族と一緒に食事をしない。
- 成績やテスト結果が急に下がる。
- 衣服の汚れが顕著になる。
- 物がなくなる理由を聞いても「分からない」と反発する。
- 学校のことを詳しく、具体的に聞こうとすると怒る。
- メールやブログ等を見ようとしめない。
- いたずら電話がよくかかってくる。
- ちょっとした音に敏感になる。
- 友人からの電話に「ドキッ」とした様子を見せる。
- 親に聞かれないようにひそひそ電話が多くなる。
- 学校や友達の話題を避けるようになる。
- 持ち物への落書きがある。
- 衣服、靴などを親の知らないところで自分で洗う。
- 原因不明の頭痛、腹痛、吐き気、食欲低下等の身体症状が見られる。
- 登校を渋る。
- 身体を見せたがらない。
- 外に出たがらない。外に出たときに周囲を気にする。

第3段階 学校と連絡を取り合って対応しましょう。

- 急に誰かを罵ったりする。
- かばんの中に悪口が書かれた手紙や紙切れがある。
- 身体に理由のはっきりしない傷跡があり、隠そうとする。
- 身体にマジックによるいたずらがある。
- 急に友達関係が変わる。
- 友達から頻繁に呼び出される。
- 学校と家庭で話す内容に食い違いがある。
- 悪夢を見ているようで夜中に起きることがある。
- 校外活動を休むことが多くなり、急にやめると言い出す。
- 学校を転校したいと言い出す。
- 金遣いが荒くなったり、保護者の金を持ち出したりするようになる。
- 以前では考えられないような非行行動が見られる。
- 自傷行為（リストカット等）に及ぶことがある。
- 日記等に自己の存在を否定するような文言が見られる。

